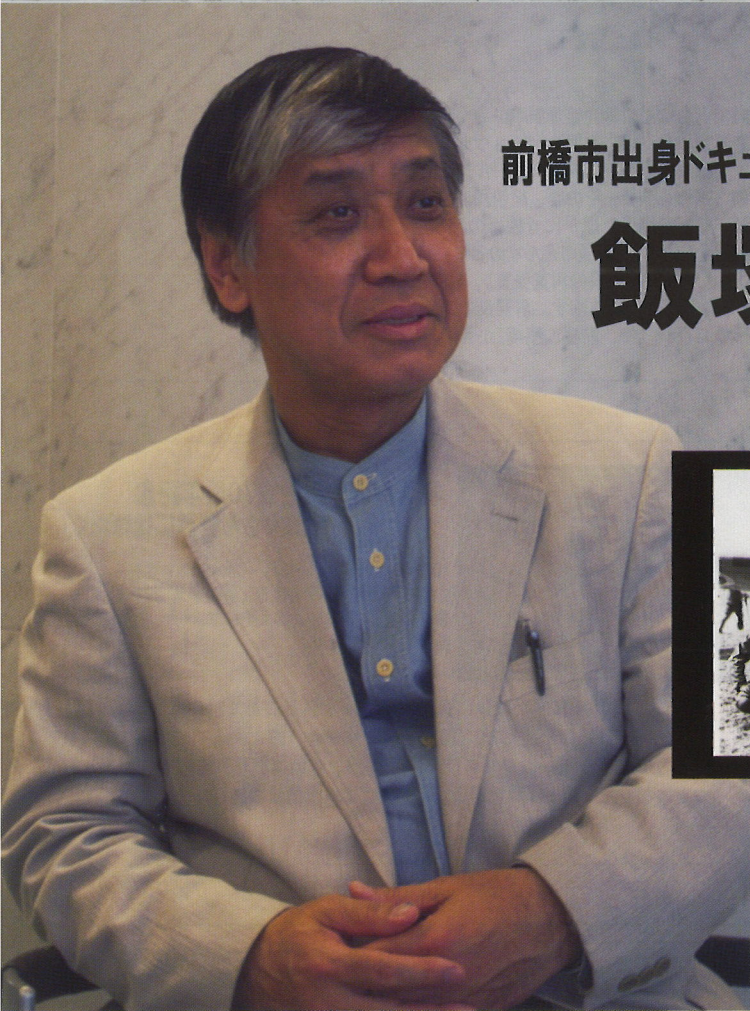




前橋市出身ドキュメンタリー映画監督 2024.4.20 (SAT) ~ 4.26 (FRI)

飯塚俊男監督特集



★ 飯塚監督による舞台挨拶を予定

4/20	土	13:00- 13:50	小さな羽音 ★ ーチョウセンアカシジミ蝶の舞う里ー	14:40- 15:40	木と土の王国 ー青森県三内丸山遺跡' 94ー	16:00- 17:10	陸軍前橋飛行場
21	日	13:00- 15:35	菅江真澄の旅 「真澄の生涯」「青森・津軽編」「岩手編」	16:00- 18:20	菅江真澄の旅 「北海道編」「青森・下北編」「秋田編」		
22	月	13:00- 14:15	群馬交響楽団創立70周年記念 ー蝶々さん群馬にはばたくー	14:30- 16:00	ブッチーニに挑む ー岡村喬生のオペラ人生ー		
23	火		休館日		休館日		
24	水	13:00- 13:50	伊勢神宮 ー生命(いのち)の森ー	14:10- 15:10	宮戸復興の記録	15:30- 16:20	小さな羽音 ーチョウセンアカシジミ蝶の舞う里ー
25	木	13:00- 14:15	群馬交響楽団創立70周年記念 ー蝶々さん群馬にはばたくー	14:30- 16:00	ブッチーニに挑む ー岡村喬生のオペラ人生ー		
26	金	13:00- 13:50	小さな羽音 ーチョウセンアカシジミ蝶の舞う里ー	14:10- 15:10	木と土の王国 ー青森県三内丸山遺跡' 94ー	15:30- 16:40	陸軍前橋飛行場 ★

● フリーパス券：3,000 円 前売券：1,000 円

● 当日：一般 1,200 円、高校生以下 500 円

【フリーパス券、前売券販売】

■ 前橋シネマハウス窓口 (027-212-9127)

■ アムール (090-3040-7695)

※フリーパス券は1枚ですべての作品のご鑑賞が可能です。

※フリーパス券、前売券をお持ちの方も劇場窓口にて受付をお済ませください。

※すべて完全入替え制になります。

前橋シネマハウス
MAEBASHI CINEMA HOUSE

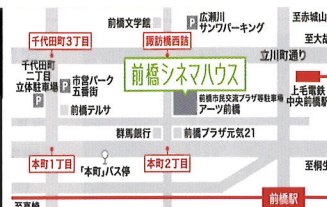


前橋シネマハウス
MAEBASHI CINEMA HOUSE

027-212-9127

前橋市千代田町 5-1-16 アーツ前橋上 3 階

www.maecine.com



〒371 0022

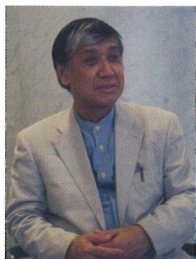
前橋市千代田町5-1-16 アーツ前橋上(3F)

tel.027-212-9127 fax.027-212-9137

休館日：火曜日

www.maecine.com

飯塚俊男監督プロフィール



1947年前橋市生まれ。東北大学在学中から、三里塚農民の記録で有名な小川紳介監督が率いる小川プロダクションに所属して、ドキュメンタリー映画の道に入る。独立後、最初の監督作品「小さな羽音—チョウセンアカシジミ蝶の舞う里」(92年)で文化庁優秀映画作品賞、キネマ旬報文化映画第1位などを受賞。94年アムールを設立。青森県三内丸山遺跡の発掘を記録した「木と土の王国」(94年)など縄文映画3部作を監督。その後、紀伊國屋書店文化映像で「菅江真澄の旅」(2002年)「稲と環境」(04年)「伊勢神宮」(06年)などを発表。ほかに「映画の都 ふたたび」(07年)「湯の里ひじおり」(09年、製作担当)「街のひかり 深谷シネマ物語」(10年)「月浜のえんずのわり」(11年)などがある。東日本大震災を描いた「宮戸復興の記録」(14年)でゆふいん文化・記録映画祭松川賞受賞。「ブッチーニに挑む—岡村喬生のオペラ人生」(12年)の前橋上映を機に、映画作りの拠点を前橋に移す。群馬交響楽団創立70周年記念「蝶々さん群馬にはばたく」(16年)を監督。「陸軍前橋飛行場」(18年)で、前橋、高崎2か月のロングランを達成。

地元群馬県での撮影作品



「陸軍前橋飛行場 —私たちの村も戦場だった—」

18年/DV/16:9/69分
ナレーション:中村万里 朗読:長沢 大
監督:飯塚俊男/撮影:重枝昭典/構成:編集:鍋島 惇
原作提供:鈴木越夫
製作協力:陸軍前橋(堤ヶ岡)飛行場製作協力委員会
配給:群馬共同映画社

戦争体験そのものが風化してしまいうような今こそ、当時を生きた人々の証言や記録を子どもたちに語り継ぎ、二度と同じ道を歩むことのないように願い製作された。

【2018年7月5日朝日新聞群馬版より】

映画は戦争の悲劇を伝えるだけでなく、歴史の真実を記録する公文書管理のあり方も問いかける。

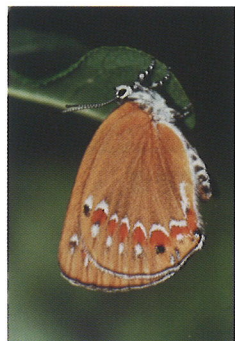


群馬交響楽団創立70周年記念 「蝶々さん群馬にはばたく」

16年/DV/16:9/71分ナレーション:鈴木麻里子
監督:飯塚俊男/撮影:高尾 隆/構成:編集:鍋島 惇
製作:群馬県/NPOみんなのオペラ/アムール
配給:群馬共同映画社

群響は、1945年日本が戦争に負けて誰もが食べることで精いっぱいだった時、高崎に誕生した。70年を経てオペラ「蝶々夫人」を本場イタリアのブッチーニフェスティバル財団の協力で製作、公演することになった。演出は岡村喬生。本格的なオペラ上演に挑むスタッフ、キャスト、楽団員たち。

文化庁優秀映画作品賞・キネマ旬報文化映画第1位



「小さな羽音—チョウセンアカシジミ蝶の舞う里」

92年/16ミリ/ビスタ/50分 ナレーション:中山千夏
監督:飯塚俊男/撮影:原 正
製作:チョウセンアカシジミの記録映画を作る会

【推薦のことは 北 杜夫(作家)】

蝶の発生には食草、食樹が必要だ、その食樹を江戸時代の水路と結びつけて観察しており、単なる虫の生態映画としてではなく、ほんの小さな環境の変化がいかに貴重な蝶を減らし、また自然の循環を理解することでそれを増やすかを教えてくれる。心の暖まるような丁寧で美しいフィルムである。

科学技術庁長官賞・日本産業映画コンクール教養部門賞



「木と土の王国—青森県三内丸山遺跡'94」

94年/16ミリ/スタンダード/58分
監督:飯塚俊男/撮影:原 正/音楽:廣瀬量平
ナレーション:高橋克彦/製作:縄文映画製作委員会

撮影中に縄文中期の巨大な6本柱が出土、縄文ブームとなる。

【推薦のことは 梅原 猛(哲学者)】

この映画の良いところは、考古学者の堅苦しい想像力に頼るのではなく、移植ペンを器用に扱うおばちゃんたちの手先の感覚から、5千年前の世界を現出させているところだ。

教育映像祭文部科学大臣賞

「菅江真澄の旅—いでは みちの奥 見にまからん」 第1作～第6作

02年/DV/16:9/
ナレーション:伊藤惣一
監督:飯塚俊男
撮影:重枝昭典/監修:赤坂憲雄
製作:紀伊國屋書店



【監修者のことは 赤坂憲雄(民俗学者)】

北の旅人がいた。いまだ二百年ほど前、その男はただ一人、道の奥に広がる北の大地を這うように歩きつづけた。来る日も来る日も、みづからが見たこと、聞いたことを、あるがままに記録した。・それは迫真のドキュメンタリーであり、また、その豊饒さにおいて、突出した一級資料でもある。



「ブッチーニに挑む—岡村喬生のオペラ人生」

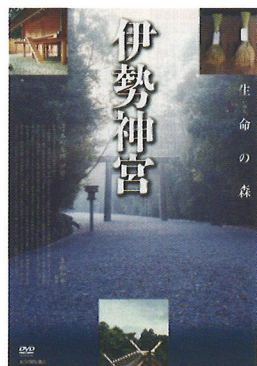
12年/DCP、BD/ビスタ/88分
ナレーション:倍賞千恵子
監督:飯塚俊男/撮影:高尾 隆/構成:編集:鍋島 惇
製作:アムール+パンドラ

銀座東劇で初公開。前橋では岡村喬生のコンサートも同時開催され、以後、国内各地でシネマとコンサートが展開された。

【公式パンフレットより 石坂健治(日本映画大学教授)】

文化摩擦の闊いの現場に身を置き、独立独歩の表現者として生きて来たインディーズ魂を胸に秘めている点で岡村と飯塚は共鳴・共振し、それがこの興味深いドキュメンタリーに結実している。

第17回ゆふいん文化・記録映画祭 松川賞



「伊勢神宮—一生命(いのち)の森」

06年/DV/16:9/47分 ナレーション:中村万里
監督:飯塚俊男/撮影:重枝昭典 製作:紀伊國屋書店

【推薦のことは 立松和平(作家)】

伊勢神宮は日本文化の原郷である。稲は毎年実り、一粒で七百粒から八百粒にも増える。この稲作の魅力を思想化したのが、伊勢神宮の様々な神事である。

【監修者のことは 菰田 稔(京都大学名誉教授)】

お米も野菜も海塩も鯛も鮑も海草も、日ごとに神々に供える食べ物をすべて自給する神宮は、正しく「生命の森」なのである。



「宮戸復興の記録 2011～2013」

14年/DVCAM/58分
構成・演出:飯塚俊男/撮影:重枝昭典/撮影協力:遠藤協

東日本大震災の年、宮戸島で「えんずのわり」を製作していた。宮戸では亡くなった人はいなかったが、全村が流された。「えんずのわり」は続けられるのか、見届けようと、さらに撮影を続けた。